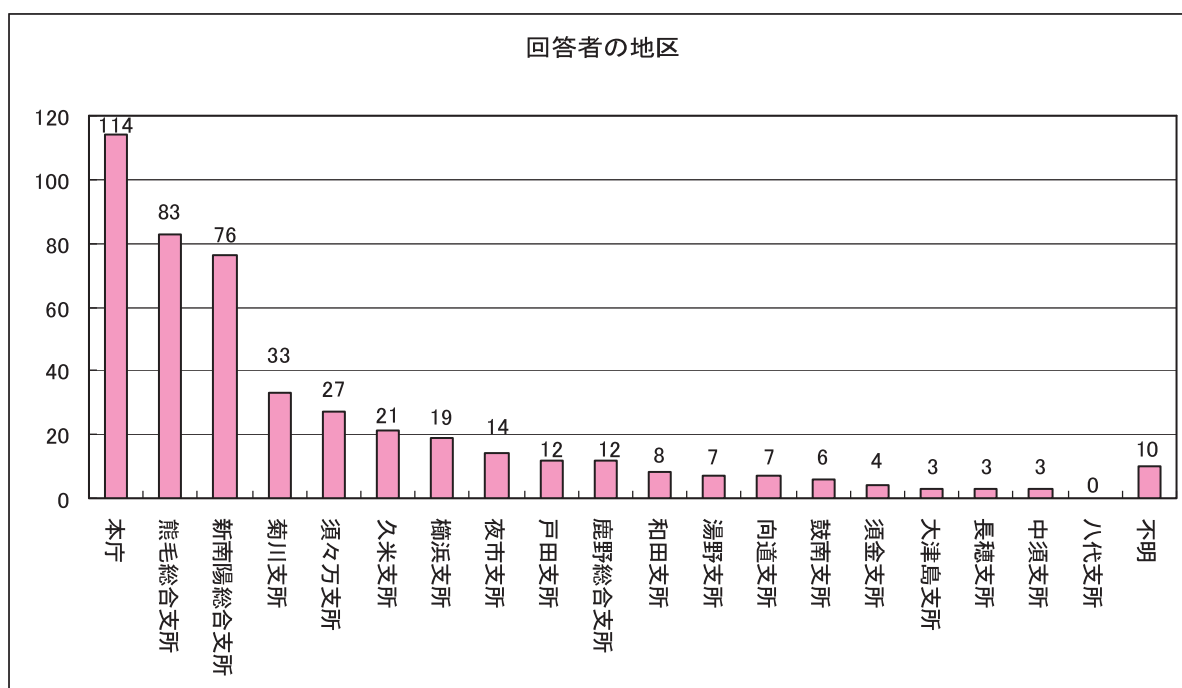
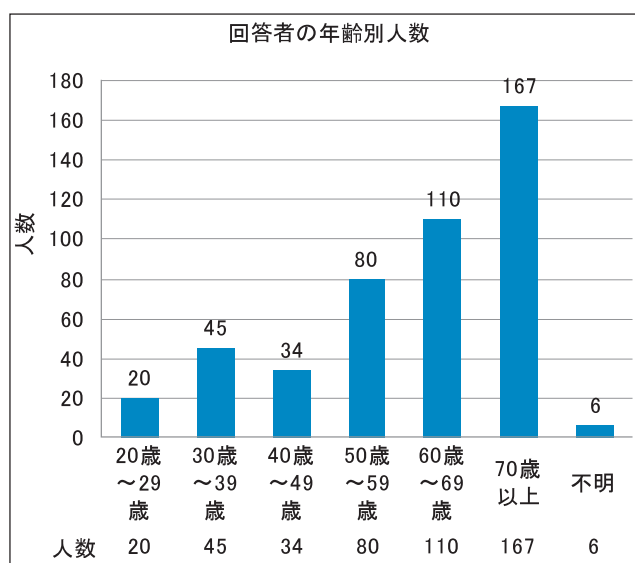
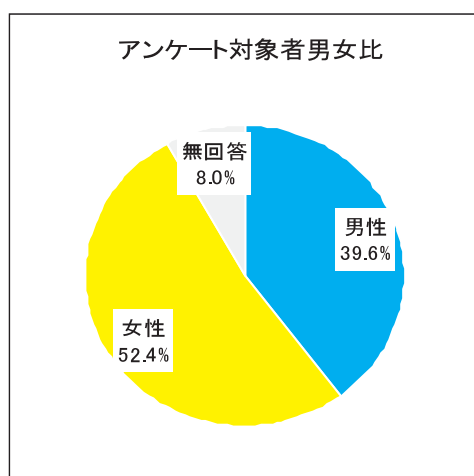


## 6. アンケート調査結果

### (1) 市民アンケート調査結果

#### ① アンケート配布・回収状況

配布数	回収数	回収率
1,300 通	462 通	35.5%
(参考 H16 年度 2,000 通)	1,044 通	52.2%



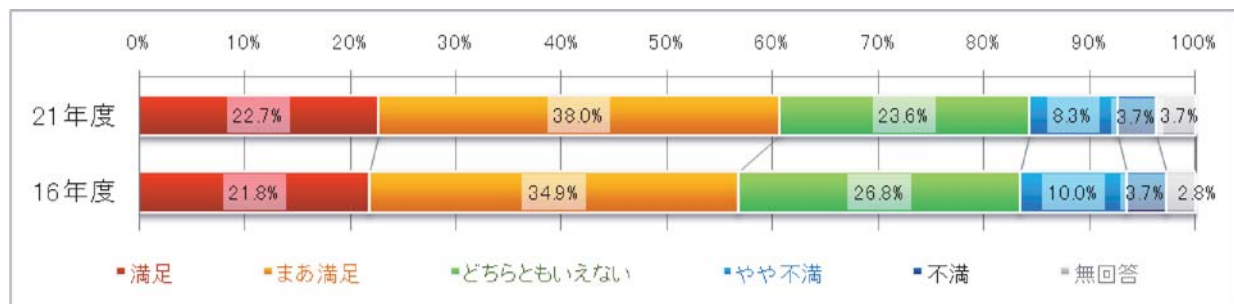
②調査結果

◆居住地区の環境について

平成 16 年のアンケート実施時と比較して、いずれの項目も満足度があがっています。しかし、快適環境やその他の項目においては“満足・まあ満足”と回答している方が、半数に満たず、特に、⑪歴史的な雰囲気、⑬一人ひとりの環境に対するモラルに対する満足度が低い状況でした。地区別では、鹿野、熊毛、徳山、新南陽の順に満足度が高く、年代別では、60 歳以上と30歳代の方の満足度が高い状況でした。また、40 歳代の方の満足度はすべての項目において低い状況でした。

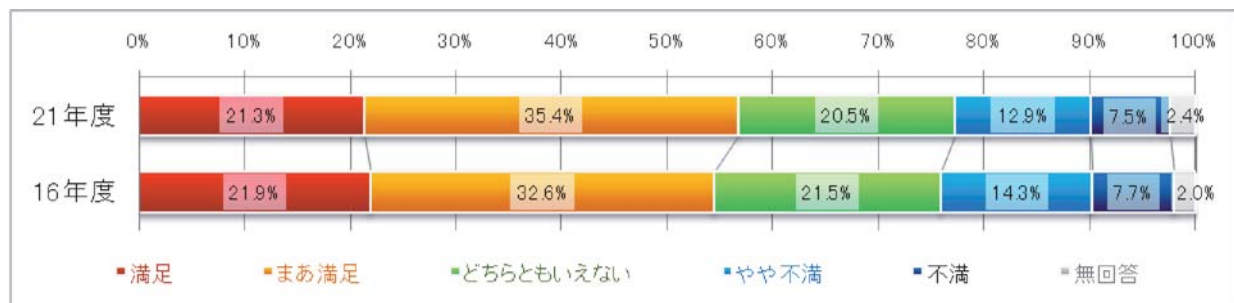
《自然環境について》

【設問項目】 ①緑の多さ ②自然とのふれあい ③自然景観の美しさ ④生物の多様さ



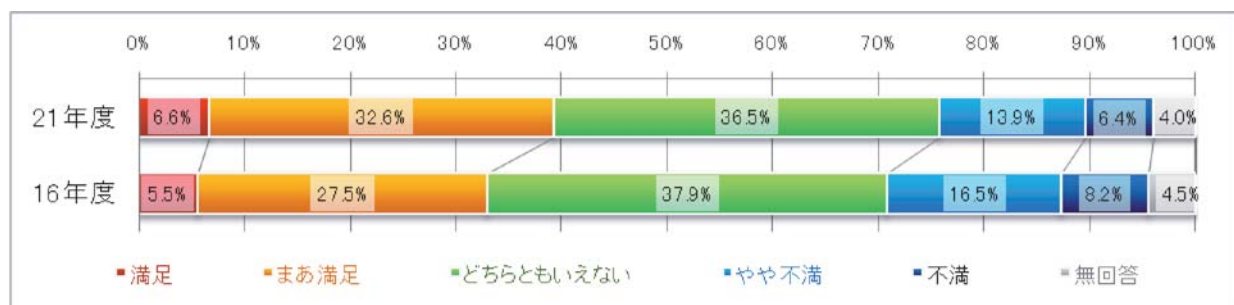
《生活環境について》

【設問項目】 ⑤空気のきれいさ ⑥水のきれいさ ⑦静けさ ⑧空気のおい



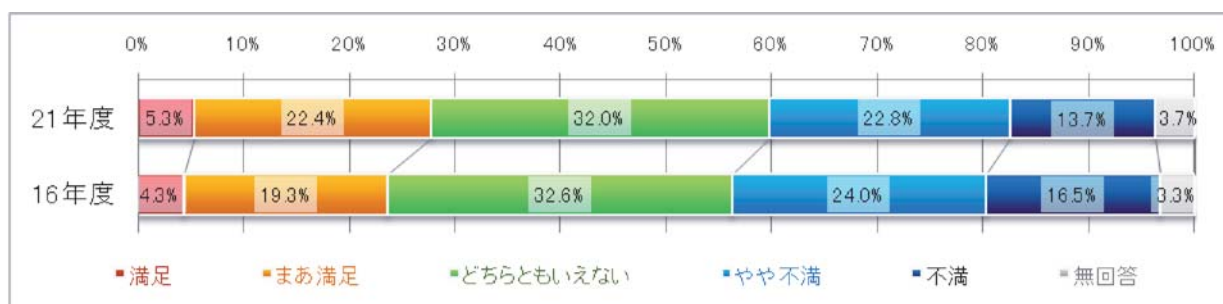
《快適環境について》

【設問項目】 ⑨まちや道路のきれいさ ⑩公園などの憩いの場 ⑪文化遺産などの歴史的な雰囲気 ⑫地域や自治会などのコミュニティー活動

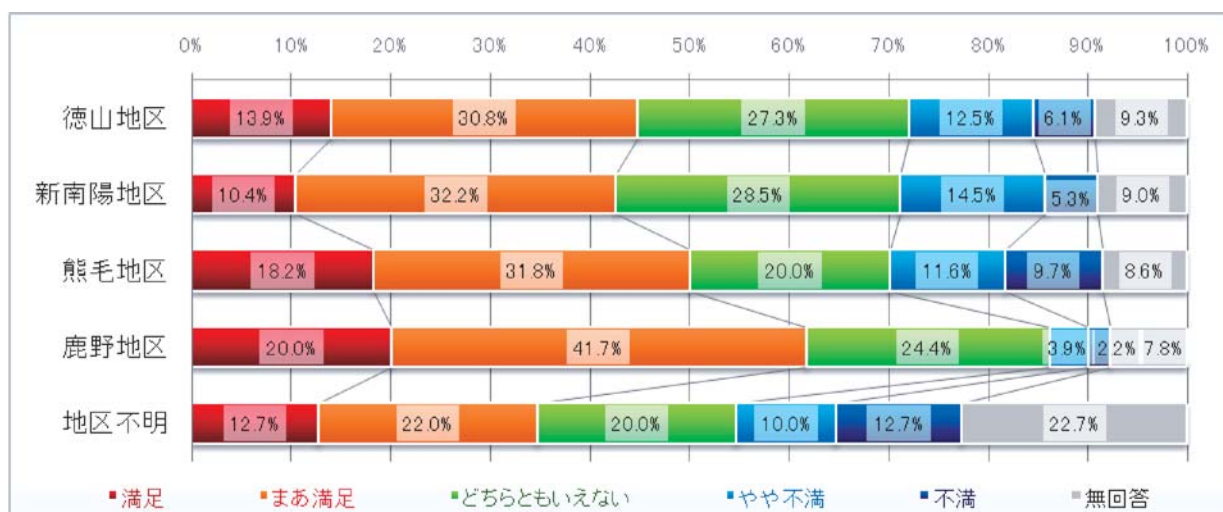


## 《その他の項目について》

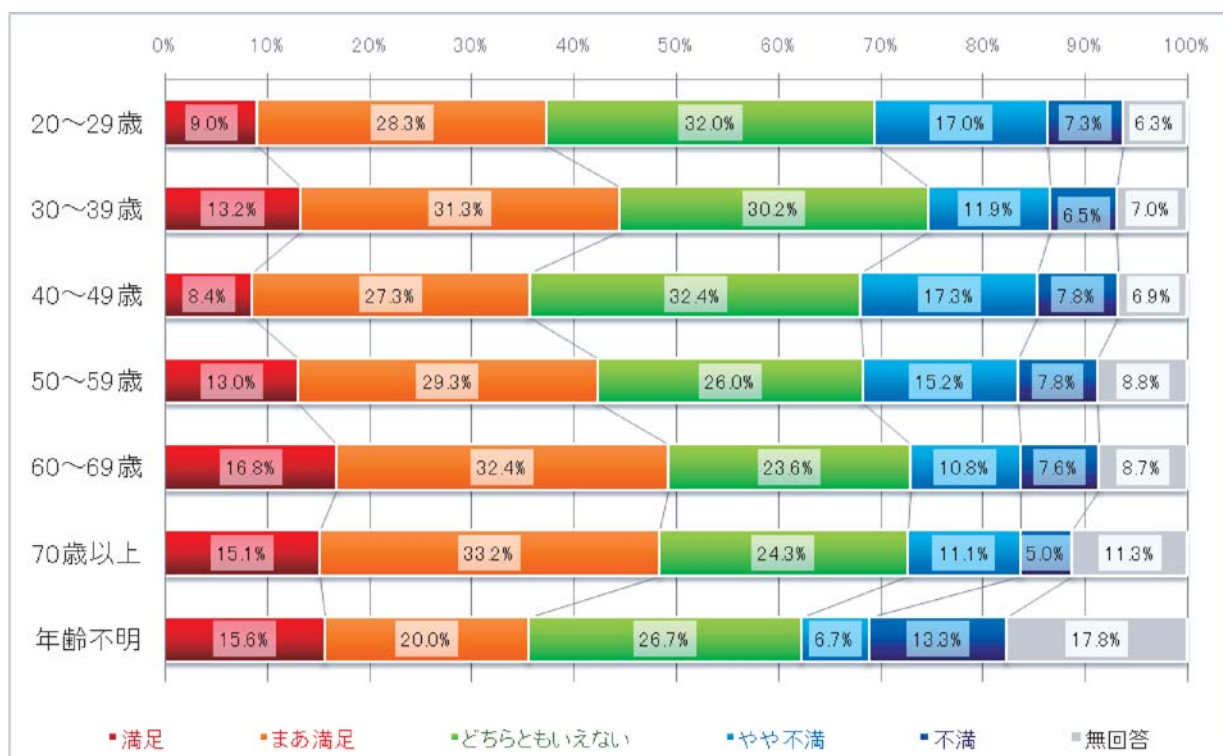
【設問項目】 ⑬一人ひとりの環境に対するモラル ⑭公共交通機関の利便性



## 地区の環境に対する意識の「地区別比較」



## 居住地区の環境に対する意識の「年代別比較」



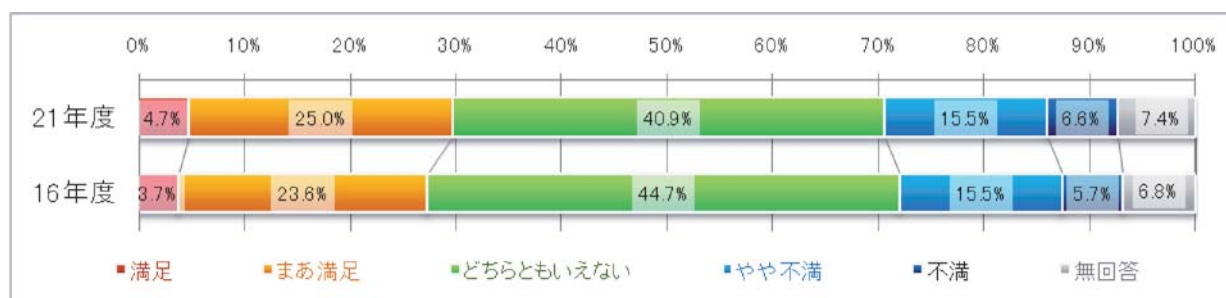
◆環境保全対策について

無回答、“どちらともいえない”の回答が多く、「居住地区の満足度」は、“満足”、“まあ満足”の割合が低い結果となりました。環境保全対策についての周知とさらなる対策の推進の必要があります。「環境保全の重要度」は、60%以上の方がすべての項目において“非常に重要”、“重要”と回答しており、環境保全に対する意識が高い状況でした。

満足度(住んでいる地区)

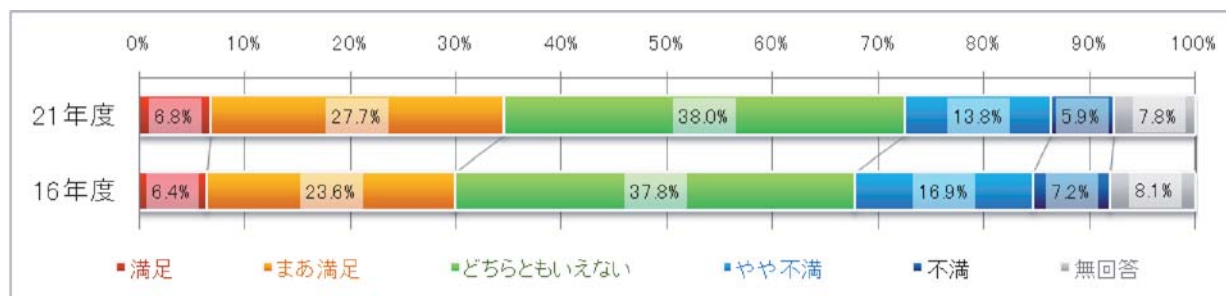
《自然環境について》

【設問項目】 ①動物や植物の生息・生育地の保護 ②山林の保全 ③水辺環境の保全 ④農地の保全 ⑤自然とのふれあいの場の整備



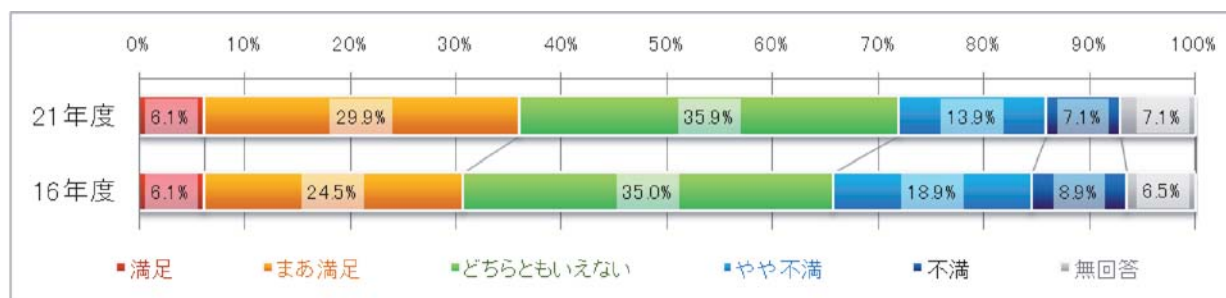
《生活環境について》

【設問項目】 ⑥工場・自動車による大気汚染 ⑦下水道等の生活排水の処理施設の整備 ⑧工場からの排水による水質汚濁対策 ⑨工場・自動車からの騒音対策 ⑩ごみ処理体制の充実・リサイクル推進 ⑪工場などからの悪臭対策 ⑫省エネルギー対策・新エネルギーの活用



《快適環境について》

【設問項目】 ⑬まちの緑化 ⑭文化財の保存・整備 ⑮ポイ捨て防止などの環境美化 ⑯公園の整備



## 《広域環境について》

【設問項目】 ⑰地球温暖化防止への取り組み ⑱近隣市町村と連携した流域や海域の保全対策  
⑲次世代を担う子どもへの環境教育 ⑳環境に関する情報の提供



## 重要度(周南市の将来の環境)

## 《自然環境について》

【設問項目】 ①動物や植物の生息・生育地の保護 ②山林の保全 ③水辺環境の保全 ④農地の保全 ⑤自然とのふれあいの場の整備



## 《生活環境について》

【設問項目】 ⑥工場・自動車による大気汚染 ⑦下水道等の生活排水の処理施設の整備 ⑧工場からの排水による水質汚濁対策 ⑨工場・自動車からの騒音対策 ⑩ごみ処理体制の充実・リサイクル推進 ⑪工場などからの悪臭対策 ⑫省エネルギー対策・新エネルギーの活用





《快適環境について》

【設問項目】 ⑬まちの緑化 ⑭文化財の保存・整備 ⑮ポイ捨て防止などの環境美化 ⑯公園の整備



《広域環境について》

【設問項目】 ⑰地球温暖化防止への取り組み ⑱近隣市町村と連携した流域や海域の保全対策 ⑲次世代を担う子どもへの環境教育 ⑳環境に関する情報の提供

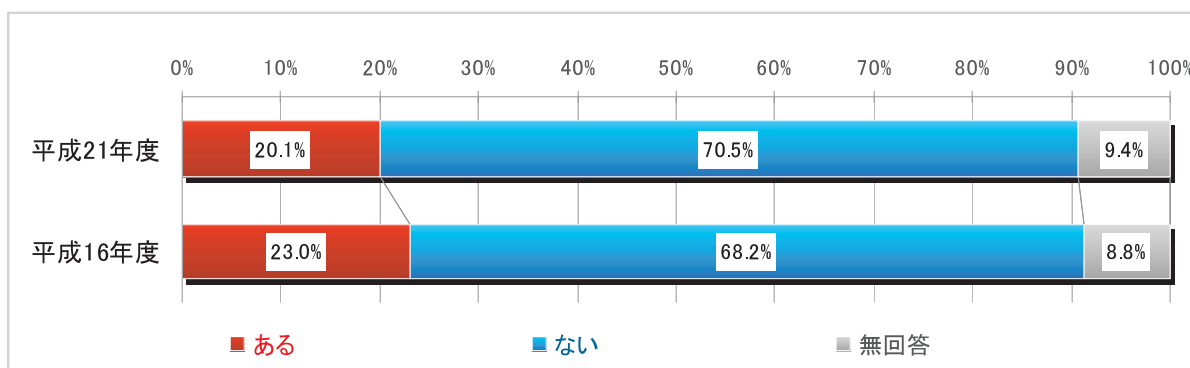


## ◆環境保全活動への参加について

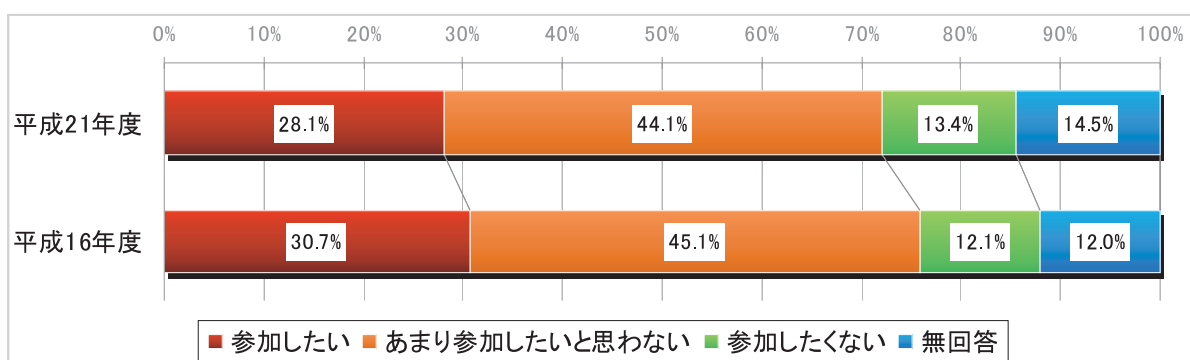
全体的に参加の経験が少ない傾向にあり、参加割合、参加意欲ともに16年度のアンケートよりも減少しています。自治会や子供会など身近で行われる活動には割合参加しており、そういった機会が身近にあれば参加も増えるのではないかと考えられます。

①八代のツルなど貴重な動植物の保護活動 ②森林や里山などの保全活動 ③ハイキングや野外キャンプなどの自然を体験する活動 ④ホテルなどの水生昆虫の観察・調査 ⑤ブラックバスなどの外来生物の被害防止に関する活動 ⑥子供会等が行っている新聞や空き缶等の資源回収活動 ⑦ごみ処理施設や下水処理施設などの見学会への参加 ⑧清掃や空き缶拾い、河川をきれいにする等の地域美化活動 ⑨リサイクルマーケットへの参加 ⑩草花などを植える緑化活動 ⑪天然記念物などの文化財や歴史的な遺産などの保護活動 ⑫環境に関する講演会や勉強会などへの参加 ⑬環境に関するポスターや標語などへの応募

## 【参加経験】



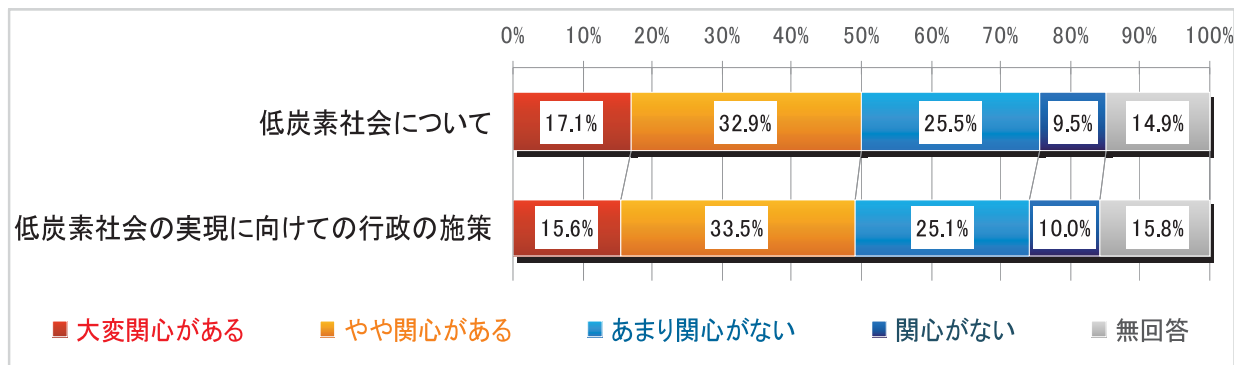
## 【今後の参加意向】



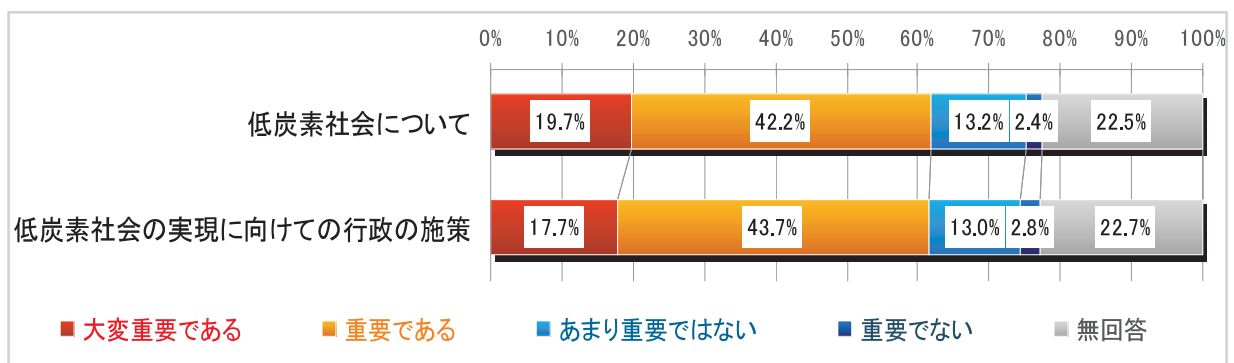
◆低炭素社会について

低炭素社会については、半数の方が関心を持っていますが、半数を超えているのは50歳代のみであり、40歳代が39%と一番低い結果となりました。重要度においては、すべての年代で50%を超えており、地区別の関心度は、徳山、新南陽、熊毛、鹿野の順でしたが、重要度は、新南陽、徳山、熊毛、鹿野の順でした。

【関心度】



【重要度】



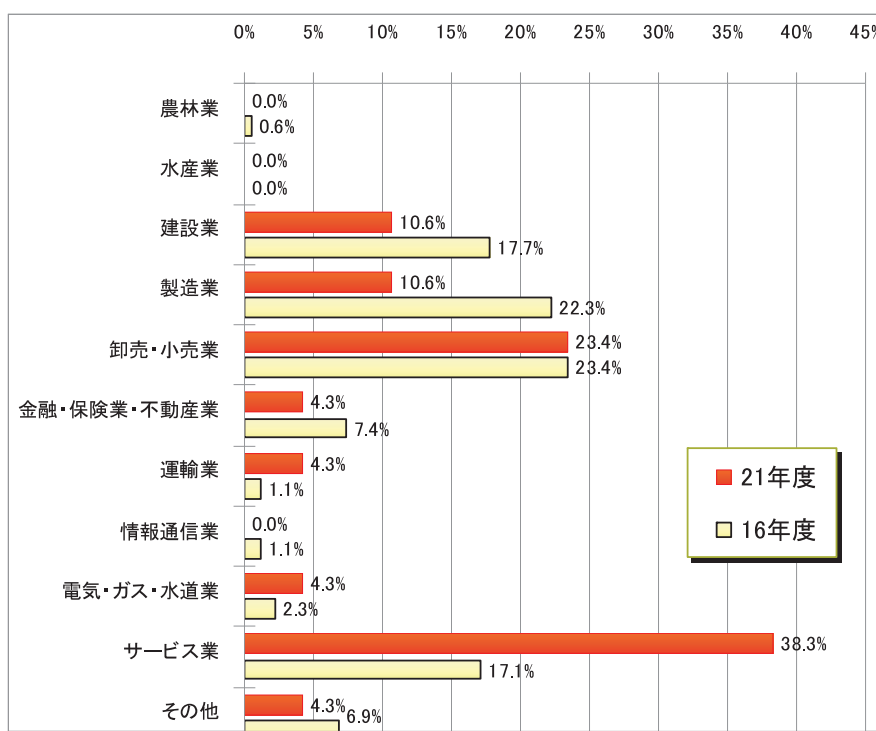


## (2)事業者アンケート調査結果

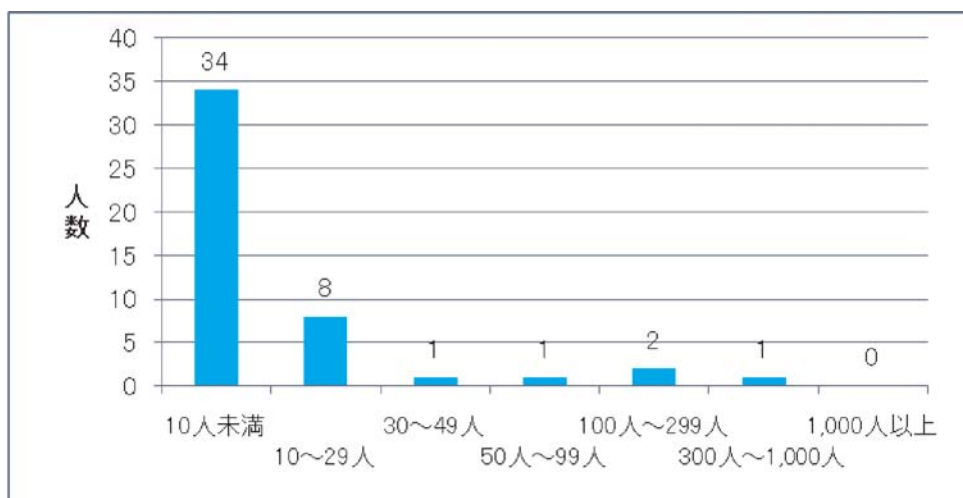
## ①アンケート配布・回収状況

配布数	回収数	回収率
130 通	47 通	36.2%
(参考 H16 年度 300 通)	184 通	61.3%

## ■ 事業所の業種



## ■ 従業員数

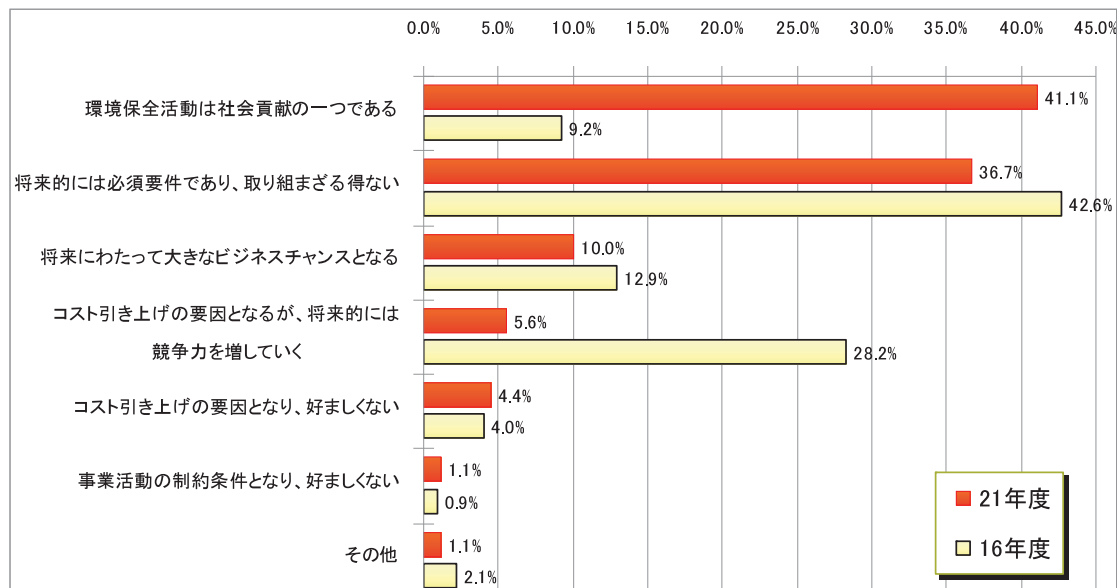


②調査結果

◆環境保全活動の取組について

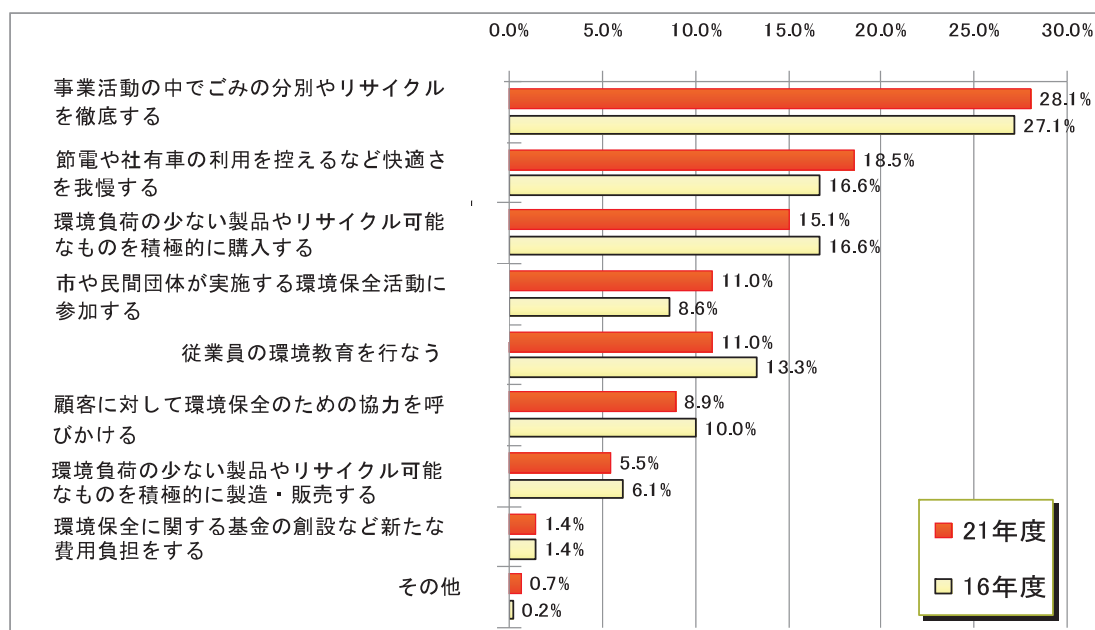
企業が環境保全活動へ取り組む意義

事業所において「環境保全への取り組みが必須である」という認識が、前回のアンケート時よりも高くなっており、環境保全活動が事業活動の一部であるとの認識が強くなっています。



環境保全のために可能な取組

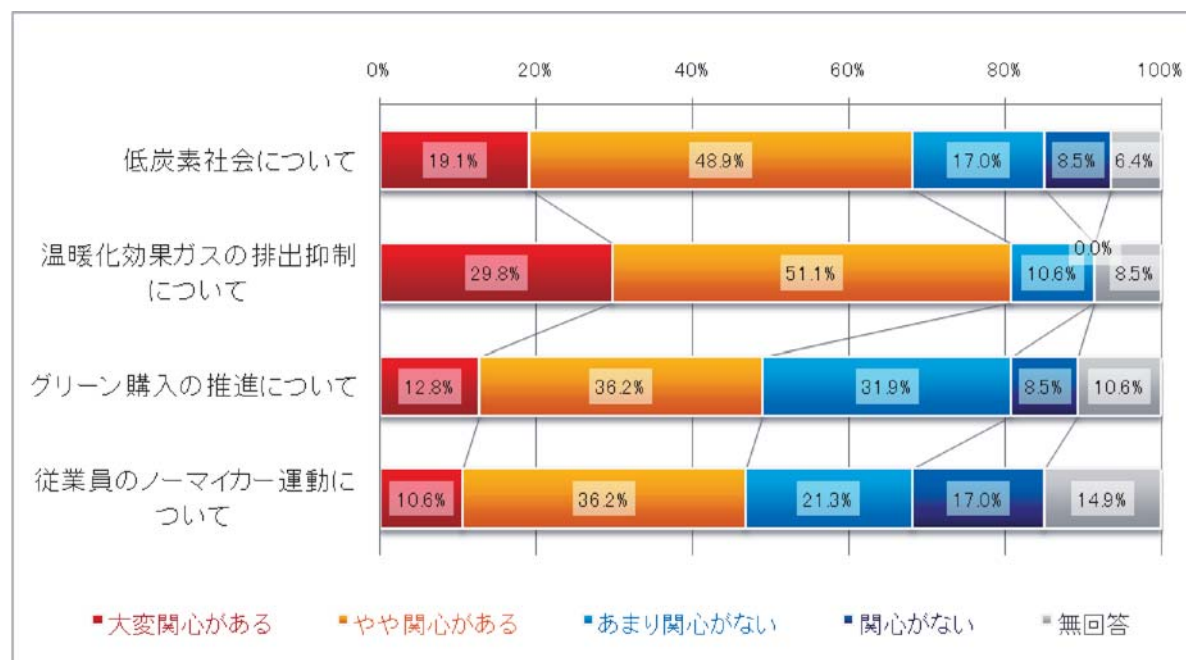
企業においても市民アンケートと同様、一番身近なゴミの分別やリサイクルがもっとも多く選択された結果となりました。また、「環境保全活動に積極的に参加する」、という認識が前回のアンケートから比較すると、徐々に浸透しています。



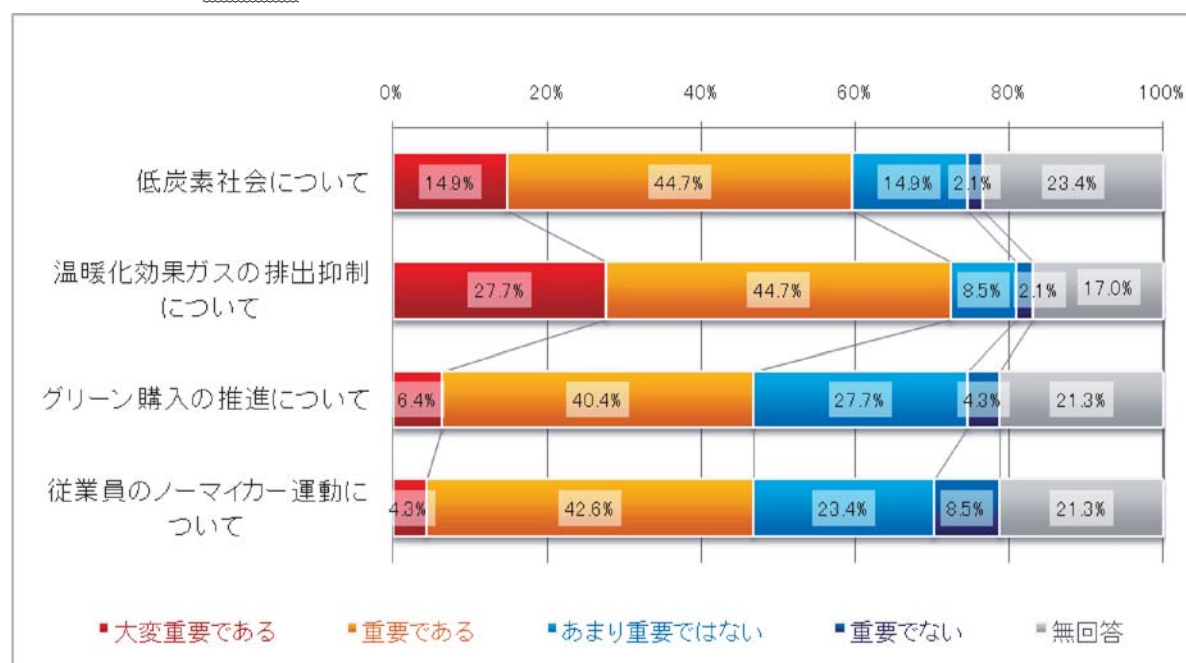
## ◆低炭素社会に対する関心度

温室効果ガスの排出抑制についての関心度、重要度は、ともに70%を超えて高い半面、グリーン購入の推進やノーマイカー運動については、50%に満たない結果となりました。

## 低炭素社会実現への関心度



## 低炭素社会の重要度



◆行政に望む支援策について

環境保全の取組を推進していく上で、行政に望む支援策

前回のアンケート時に比べ、“環境規制に関する情報提供”や“環境パートナーシップ構築のためのネットワークづくり”などが減少し、“環境教育の指導者、人材の育成”や“表彰、評価”、“環境ラベルの普及啓発”などを望む声が増加しました。

